

【富士通川崎合唱団】3年ぶりとなる単独演奏会！第9回演奏会を開催しました



ホール入口

5月30日(土)、富士通川崎合唱団は、川崎市総合福祉センター(エポックなかはら)で第9回演奏会を開催しました。地元川崎をはじめとした地域の方や富士通グループ関係者など500名のお客様にお越しいただき盛会となりました。前回の第8回演奏会は2012年6月に中原市民館多目的ホールで行われ、それ以来3年ぶりの単独演奏会となります。

今回は富士通川崎合唱団として初めて、エポックなかはらで演奏会を開催できました。前回の会場は約300人収容でしたが、エポックなかはらは1階席だけで約600人収容可能です。今までの約2倍の集客目標となり不安はありましたが、団員や今までお世話になった方々のご尽力もあり、501名のお客様にご来場いただくことができました。

次回の演奏会は2年後の2017年に開催を予定しています。また、2017年に富士通川崎合唱団は創団70周年を迎えることとなるので、今回以上に記念の演奏会として盛り上げていきたいです。

【演奏内容】

■曲目:

第一ステージ:無伴奏宗教曲

Regina Caeli グレゴリオ聖歌
Prelude 作曲:Ola Gjeilo
Lux Fulgebit 作曲:Javier Busto
Ave Maria 作曲:Ambrož Čopi
Regina Caeli 作曲:Ambrož Čopi

第二ステージ:覚和歌子の詩による 混声合唱曲集「等圧線」

詩:覚 和歌子 作曲:信長 貴富

1. 等圧線
2. からだ
3. F
4. リフレイン

第三ステージ:アラカルトステージ “希望のうた”

鉄腕アトム 作詞:谷川俊太郎 作曲:高井 達雄 編曲:信長 貴富
前へ 作詞・作曲:佐藤 賢太郎

Let It Go ～ありのままで～ 作詞・作曲:Robert Lopez & Kristen Anderson-Lopez

日本語訳詩:高橋 知伽江 編曲:名田 綾子

明日があるさ 作詞:青島 幸男 作曲:中村 八大 編曲:多胡 淳

好きです かわさき 愛の街 作詞:肥後 義子 補作:石本 美由起 作曲:山本 直純

Climb Ev'ry Mountain 作詞:Oscar Hammerstein II 作曲:Richard Rodgers 編曲:源田 俊一郎

アンコール

ぜんぶ(ピアノ伴奏版) 作詞:さくらももこ 作曲:相澤 直人

いちばんぼし 作詞:まど みちお 作曲:黒崎 和雄

■指揮:加藤雅子

■ピアニスト:福崎 由香



第一ステージ



第二ステージ

第一ステージは、暗転状態から幕が上がり、出演者全員がロウソク風ライトを手に持ち、神秘的な雰囲気から始まりました。曲間には、指揮者の加藤先生の解説を織り交ぜ、宗教曲をあまり聴いたことがなかったお客様にも、雰囲気を感じ取っていただくことができましたようです。第一ステージの曲目は Regina Caeli に始まり Regina Caeli に終わりました。グレゴリオ聖歌の Regina Caeli と今回最後に演奏した 2008 年に作曲された Ambrož Čopi の Regina Caeli では、作曲の時期に実に数百年の規模の隔りがあります。時代を超えて、形を変化させながら歌い続けられる宗教曲の色々な面をお客様に聴いていただけたかと思えます。

第二ステージではピアノ伴奏付の日本語の曲集に挑戦しました。曲ごとに大きく雰囲気が変わり、多彩な歌とピアノが混ざり合う難曲でしたが、ピアニストの福崎由香先生との合同練習に加え、練習録音を繰り返し聴くなど各人が努力をし、形にすることができました。



第三ステージ(明日があるさ)



ベースパート紹介

第三ステージは、“希望のうた”をテーマに合唱曲からアニメソングまで幅広く演奏するアラカルトステージでした。合唱になじみのないお客様に楽しんでいただけるよう、選曲・演出を特に工夫しました。出演者全員でボックスステップを踏みながら歌った「明日があるさ」や、お客様を含む会場全員で歌った「好きですか わさき 愛の街」など、多くのお客様に楽しんでいただくことができました。

曲の合間には、ソプラノ・アルト・テノール・ベースそれぞれのパートが趣向を凝らしたパート紹介を行いました。特にソプラノ・アルトのパート紹介は、歌あり踊りありセリフありで、演奏並に気合が入っており、会場からも多くの笑い声が聞こえました。



ソプラノパート



アルトパート

また、新しい試みとして、「開演中は携帯電話の電源を切ってください」というお願いを歌に乗せてお客様に伝える「携帯切らなきゃおしおきよ 2010 年版(作曲:松下耕)」という曲を開演前に歌いました。お客様には大変好評で、アナウンスで伝えるよりも温かく、お客様にも快く携帯電話の電源を切っていただくことができました。



携帯切らなきゃおしおきよ

アンコールで歌った「ぜんぶ」は富士通川崎合唱団ではアカペラ版はこれまで何度も歌ってきましたが、ピアニストの福崎先生をお呼びするというので、ピアノ伴奏版に挑戦しました。アカペラ版と大きく異なるところは、冒頭で全員がユニゾンで主旋律を歌い、二回目から4部に分かれて合唱の響きが生まれるところです。全員でのユニゾンで「たいせつなことはぜんぶここにある」という一番大切な詩をシンプルに伝えることができ、新しい感動が生まれました。

最後に歌った「いちばんぼし」は富士通川崎合唱団の団員が作曲した曲です。まど みちおさんの詩にふさわしい美しい曲です。富士通川崎合唱団の愛唱歌としてこれからも皆で歌い続けていこうという想いで

最後に歌いました。



全員集合

次回の第10回演奏会は2017年ですが、それまでの間にコンクールや合唱祭、イベント出演など多くの活動が控えています。演奏会の経験をこれらの活動に生かし、またこれらの活動の経験を2017年の演奏会に生かし、より魅力的な演奏会とするべく努力いたします。これからも応援よろしくお願いいたします。

【記事：富士通川崎合唱団(アルト) 浅川 春奈、写真提供：フェスラー千西】